

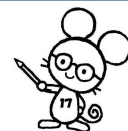


社教NFTかわら版

中部教育事務所社会教育だより (NFT=network・footwork・teamwork)

中部教育事務所第48号
令和4年12月5日
主任社会教育主事
藤田望美・濱本智子

令和4年度 高知県公民館研究大会（高知市大会）



大会テーマ「世代を超えて愛される公民館を目指して～世代をつなぐ・地域をつなぐ～」

令和4年10月7日（金）高知市春野文化ホールピアステージにて、高知県公民館連絡協議会が主催となり研究大会が開催されました。「WITHコロナ」時代を見据えた新たな公民館機能が求められる一方で、公民館に携わる関係者の高齢化が進んでいる中、新時代に対応していくために、これからの公民館を支える若い世代を巻き込んだ公民館の在り方について考える研究大会でした。表彰式では、令和4年度高知県公民館連絡協議会表彰（公民館・公民館職員等）として16名の方が表彰されました。

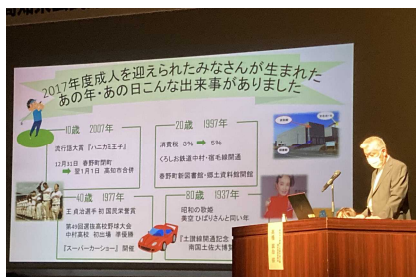
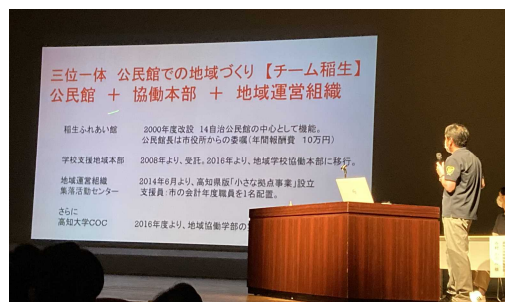
【基調講演】「公民館での居場所づくり、出番づくり」

講師 南国市稲生ふれあい館顧問 前田 学浩 氏

高知大学地域協働学部4年生 谷澤 都 氏 今村 華音 氏

南国市稲生公民館での地域づくりとして、「稲生ふれあい館」「学校支援地域本部」「地域運営組織、集落活動センター」の三位一体での地域づくり「チーム稲生」の講話でした。

困難な社会課題を共に解決していくためには、地域の学びのセンターである「学校・公民館を核」とした社会教育の基盤づくりが最も広く地域住民に共感が生まれ、効果的で期待できる。と、前田学浩氏は熱く語られていました。



【実践発表】「芳原あしたの成人式～夢と希望と感謝の世代間交流～」

発表者 高知市春野公民館芳原分館運営委員会委員長 高橋 誠治 氏

「継続は地域力を育む」という高橋氏の言葉通り、地域づくりの担い手を育む地域住民を「おすぶ」役割を10年間継続した取組の発表でした。10年間の実践では、公民館の運営委員会の後継者、地域の次世代リーダーを育成されたことが地域力へつながり、社会教育の大きな基盤がつくられていました。コロナ禍でも地域住民で思案し新しい方法で行うことで、地域の対応力にもつながった実践の発表でした。

【パネルディスカッション】「これからの公民館活動」

パネリスト 高知市上本宮町山手公民館 片田 ひろ美 館長

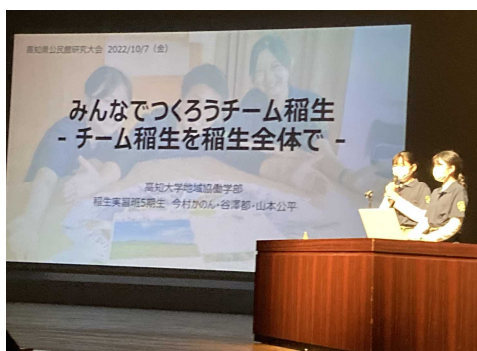
高知市桂浜公民館 片山 正一 館長

高知大学地域協働学部4年生 山本 公平 氏

公民館は、地域住民のために社会教育に推進する拠点施設として、公民館で仲間が「つどい」「まなぶ」「おすぶ」人づくり、地域づくりを目指している取組について意見交換が行われました。これからの公民館は、子どもや若者に限らずどの世代も含めて、地域住民が気軽に集えるコミュニティの活動の拠点となるような取組を発信していくことが重要であると確認がされました。



高知県公民館連絡協議会 表彰式



令和4年度 高知県連合婦人会リーダー研修会

大会テーマ 「～未来を創る女性の力・婦人の輪～」

令和4年10月21日（金）に高知県婦人会館（高知市永国寺町）にて、地域の女性たちが手を結び合い、しあわせのために行動を起こし、国際社会の一員としてこれまで以上に見識を深め、次世代につなぐ平和で安心・安全な地域社会づくりを目指し、高知県連合婦人会リーダー研修会が開催されました。

開会では、主催者を代表して、高知県連合婦人会の山下福恵会長が、約2年間のコロナ禍中に気づいたことや思いを新たにすることはとても大切なことであり、その気づきや思いを、地域の仲間と共有し、今後の婦人会活動に生かしてほしいと熱い思いを語られ研修会がスタートしました。

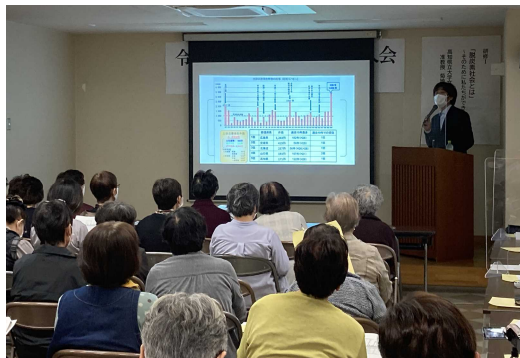


研修会では、高知県立大学文化学部文化学部の菊池直人准教授を講師に招き、『「脱炭素社会とは」～そのために私たちができること～』を演題に講演を聞きました。

現代社会において、二酸化炭素の排出量と吸収量をトータルとして、プラスマイナスゼロの状態にしていこうということが「カーボンニュートラル」の取組です。国は、2030年までに100カ所の「脱炭素先行モデル地域」をつくろうと、様々な取組を推進しています。これからの社会は、環境に配慮した「消費活動＝エシカル消費」がとても重要です。自分のためだけの行動ではなく、社会や地域の消費活動を意識した生活をしていくことが大切です。菊池直人准教授からは、高知県は、環境に優しい取組や関連イベントの告知を通して、行動の変容を促し、県民に楽しく「カーボンニュートラル」の実現を目指していくために、「環境パスポート」のWebサービスを行っていることの発信もありました。

現在、私たちは「新しい生活様式」に少しずつ慣れ始めています。いつの間にかそれが新たな日常となり、仕事は、ICT機器を活用したりリモート化になったり、研修・会議はオンライン開催になったりと、その時その場の状況に左右される日々が続く中の集合型の研修会に参加した婦人会の方たちは、仲間と一緒に時間を共有できることに、とても生き生きと目を輝かせ活気にあふれていました。婦人会活動の原点である、「仲間をつくり」一緒に学び合い、様々な「地域課題」の解決に取り組んできた同志としての絆を感じる研修会でした。研修会終了後は、県下の各ブロックから地域の「特産物」や「手作り加工品」等が販売され心身ともに満たされる時間でした。

すべての人が豊かな人生を送るためには、あらゆる機会に、あらゆる場面で学習ができ、その成果を発揮できる社会の実現に向けて、生涯学習の理念の再確認が必要であると感じます。



婦人会マルシェの様子



中部教育事務所管内の社会教育活動を発信します



この「社教NFTから版」はみなさんの地域や社会教育活動を応援する情報誌です。社会教育に関わる活動情報がありましたらぜひお知らせください。
連絡先：高知県教育委員会事務局 中部教育事務所 TEL 088-893-6166 FAX 088-893-6167 E-mail 310305@ken.pref.kochi.lg.jp